



## にげたにおうさん

(9分)

むかし：あったとき

あるお寺に仁王という名前の門番がいたんだって：

仁王さんは大変な力持ちでそのあたりで力比べをしても誰にも負けな  
かったそうだ：

ある日のこと、仁王さんは和尚さんの前に出てこういった

「和尚さま：どうか一年間おひまをください：その間に日本中を旅し  
て力比べをしてきたいと思えます：一生のお願いです」  
すると和尚さんは



1



「お前のようないい門番がいなくなるのは残念だが、それほど言うの  
なら行っておいで：身体に気をつけてな：それからこれを持って行きな  
さい」

こういって小さな木の箱を取りだした

「この箱はお前が本当に困ったときに開けるのだ：それまでは開けて  
はいけないよ」

仁王さんはこの箱をありがたくいただいて旅に出た

そうして色々な国を旅して、相撲で力比べをしたのだが、仁王さんに  
はだれも勝てなかった

とうとう日本中で仁王さんにかなうものは誰もいないことが分ると



2

「これからは好きな相撲をとることができない：つまらないなあ」といった

するとある人がこんなことを教えてくれた

「仁王さん：なんでも海を越えた隣の国に大変な力持ちがいるそうですよ：その人は今まで負けたことがないそうですよ」

「それはいいことを聞きました：それではこれから隣の国へ行って力比べをしてきましょう：」

仁王さんは海岸へ出ると一人で船に乗り、ギツチラ、ギツチラ舟を漕いで海を越え、隣の国の海岸についた

3



そして道を歩いている人に聞くと、力持ちのうちはすぐにわかった  
仁王さんは力持ちの家の門の前に来るとこういった

「ごめくださーい：力持ちさんはおいでですかーっ：」

すると中から腰の曲がったおばあさんが出てきた

「はいはい、どなたですか？」

「わたしは仁王と申します：こちらに大変な力持ちがおいでと伺い、力比べをするためはるばる日本からやってきました」

「それはそれは遠くからご苦労さま：息子は今山へ木を切りにいっています：すぐに戻りますから、中に入ってお待ちください」

仁王さんはおばあさんについて行き、台所に案内された  
するとおばあさんは横にあった一抱えもある大きな石を片手でヒョイ

4



と持ち上げ、仁王さんの前に置いてこういった  
仁王さんは考えた

「こんな腰の曲がったおばあさんがこんなに力持ちなのだから、この  
人の息子はいったいどんな力持ちなんだろう…」  
そうして仁王さんがお茶を飲みながら待っていると、遠くからこんな  
音が聞こえてきた

**ポオオー**

「おばあさん、あの音はなんですか？」

「ああ、あれは山にいる息子が合図のホラ貝を吹いたのですよ…木を  
切り終わったから私に庭に出てうけとってくれというのですよ、ちよっ  
とごめんください…」



5



おばあさんが庭へ出ていくので、仁王さんも後をついて行った

みると山の向こうからマッチ棒のような細くて小さいものがこちらに  
向かって鳥のように早く飛んできた

するとそれはどんどん大きくなって太くて長い丸太になった

おばあさんは曲がった腰を伸ばして丸太をヒョイと受け止め、横にゴ  
ロンと投げ捨てた

丸太は後から後からつながって飛んできたが、おばあさんはそれを片  
っ端からヒョイ、ゴロン：ヒョイ、ゴロンと受け取ったものだから庭は  
見る見るうちに丸太で一杯になった

やがて丸太が飛んでくるのが止まったかと思うと、また、**ポオオー**と



6



ホラ貝の音がした

「あれはね、息子が丸太を投げ終わったから、帰るといつているのですよ：本当にお待ちたせしました、すぐに息子は帰ってまいりますよお：、さ、中へ入ってお待ちください」

仁王さんはさつきよりもっと怖くなってどうしようか考えながら部屋に戻ろうとした

すると突然、ズシーン、ズシーンと地面が大きく揺れたので仁王さんが

「おばあさん：大変な地震ですね：」

というとおばあさんは

「いいえ、これは息子の足音でございます：大変お待ちたせしましたね

7



え：息子はすぐそこまできておりますよ  
といったので仁王さんは怖くて怖くてどうにも我慢できなくなったので

「おばあさん、ちょっと私はおしっこをします：失礼します：」

そういつて裏口から逃げだし、海岸へ戻ると船に乗り後ろも見ないでギツチラギツチラと漕ぎだした

しばらくして海岸のほうから大きな声がした

「おーい 逃げるとは弱虫だぞ：戻れ：戻れーっ」

仁王さんはつかまったら大変と船をこぎ続けた  
するとシユルシユルシユルと音がして、空から太い綱が落ちてきて船

8



にガツチリからみついた

海岸から力持ちが綱を投げたのだった：綱はピーンと張られ、船がど  
んどん海岸へと引き寄せられていった

「困った：このままではつかまってしまう：」

と思った時、和尚さんにいただいた箱のことを思い出した

急いで懐から取り出して箱を開けてみると、中には小さな刀が入って  
いた

「ありがたい：助かった」

仁王さんは刀でピーンと張った綱をスパツと切り落とした

すると今までピーンと張っていた綱が切れたものだから、仁王さんが  
乗った船はあつというまにドシーン：と日本の海岸に着いてしまった



仁王さんはお寺に戻って和尚さんにお礼を言うと、それからはずっと  
門番をするようになったんだって いっちゃんぽーん さけた

おしまい

《参考文献》

「ふしぎなたいこ」 石井桃子・文 岩波書店

「仁王さんとどっこい」 国際情報社

